

オナガ

Cyanopica cyanus (Pallas)
スズメ目・カラス科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

奥越を含む嶺北地方に広く分布するが、個体数は少なく、近年減少傾向にあるとの意見もあるが、現状が十分に把握されておらず、今後の動向に注意する必要がある。

種の特徴

全長 36cm。頭は黒く、背と体下面は灰色、翼は水色で羽先は白い。尾羽はとても長い水色で中央尾羽の先が白い。雑食性で、昆虫類や果実を食べる。餌台のリンゴに餌付いたり、鳥卵や糞を食べることもある。「グェーイ、グェイ、グェイ」と大きな声で鳴くので目立つ。

分 布

留鳥として、本州の福井、岐阜、静岡を結ぶ中部地方以北～東北地方にまで分布し、市街地から集落付近の雑木林、河畔林で生息する。本県では、嶺北のみに分布し多くない。

生息を脅かす要因

本県では観察記録も個体数も少なく、観察地域も嶺北に限られており、実態は十分に把握されておらず、詳細な調査をすべきである。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、福井県自然環境保全調査研究会 (1999)、中村・中村 (1995)、大西・真木 (2000)、五百沢ら (2000)、高野 (2015)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○				○		○	○		○

カササギ

Pica pica (Linnaeus)
スズメ目・カラス科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

敦賀市の市街地において、2011年にペア、2013年には単独個体の確認記録があるが、今回の調査では生息が確認されず、今後の動向に注目する必要がある。

種の特徴

全長 45cm、尾がとても長い。羽色は緑色や紫光沢のある黒色と白色で、白色部との境界が明瞭である。16～17世紀に朝鮮半島から持ち込まれ、定着した帰化種と考えられている。海岸近くの農耕地や市街地に生息し、主に昆虫類や木の実を食べる雑食性である。

分 布

佐賀県を中心とする隣県に、留鳥として生息する。近年生息域が広がっており、北海道や本州で生息・繁殖記録がある。本県では、福井新港と敦賀市街地で確認記録がある。

生息を脅かす要因

本県で確認された個体が、移入された個体が、国内の他地域から分散してきた個体かどうかは不明である。今後も海岸近くの農耕地や市街地で確認される可能性があるため、目撃情報は記録として保存し、生息状況の把握に努めるべきである。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、大西ら (2014)、高野 (2015)、中村・中村 (1995)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											○

ホシガラス

Nucifraga caryocatactes (Linnaeus)
スズメ目・カラス科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

奥越の県境部を中心に記録があるが、繁殖記録は存在せず、現状を把握するための情報が少ない。敦賀市天筒山や矢長巣山等の低山での記録もあり、渡りの記録も収集する必要がある。

種の特徴

全長 34.5cm。顔、背、腹は、黒褐色地に白い斑点が並んでいる。翼と尾羽は黒褐色、外側尾羽の先は白く飛ぶと目立つ。ハイマツの実をよく食べ、シラビソやコメツガ等のマツ科の種子やミズナラの実も食べる。夏季は昆虫類等の動物質もよく食べる。種子の貯蔵習性がある。

分 布

留鳥または漂鳥として、九州以北の高山～亜高山の針葉樹林帯に生息する。冬季には山麓に移動する個体もいる。本県では奥越の県境周辺での記録が中心だが、低山の記録もある。

生息を脅かす要因

本県では、奥越の県境部を中心に少数の記録があるが、奥山であることから繁殖の有無等の現状把握が不十分であるため、本種を対象とした調査が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、福井県自然環境保全調査研究会 (1999)、中村・中村 (1995)、大西・真木 (2000)、五百沢ら (2000)、高野 (2015)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○		○	○			○			○	○	